

委託事業実施内容報告書
平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】

実施内容報告書

団体名：松本市

1. 事業の概要

事業名称	基礎的日本語教室を中心とした体制づくり事業
事業の目的	① 日本語学習の必要を感じていながら、既存の日本語教室につながっていない外国人の掘り起し。 ② 地域の日本語教室でボランティアとして活動することを希望する日本人の掘り起し。 ③ 平成26・27年度で当市が実施した文化庁生活者事業により始まりつつある、既存の日本語教室間との情報共有や連携、庁内の関係課や地域住民とのつながりをさらに深める。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	① 市内にある10カ所の日本語教室のほとんどが、受講者数が安定しないこと、ボランティアが不足していること、指導法等に関する研修がなく、人材育成ができず定着しないことなどの悩みを抱えている。 ② H26年度に市が実施した実態調査によると、日本語を学びたいと答えた外国人は4割に上るが、実際に教室に通っている者はごく一部である。 ③ 市内の日本語教室の横のつながりがまだ弱い。
本事業の対象とする空白地域の状況	なし
事業内容の概要	① ほとんど日本語学習経験がない外国人を対象に、生活者向けで託児付きの教室(36時間)を年3回開催する。コースは毎回2コース設け、「来日して期間が短く、日本語学習経験のない外国人」向けと「在住年数は長い、日本語学習経験のない外国人」向けに分けて実施する。また、市職員による出前講座を通して生活に必要な知識を得たり、地域で開催される行事・イベントに参加したりする。 ② 各コースの活動はコーディネーターを中心に行う。まず、コーディネーターがその日の活動・学習内容を全体に向けて導入し、引き続きボランティアが練習パートナーとなり、受講者のレベルや興味に合わせた練習を行う。コーディネーターがボランティアをサポート・指導するため、ボランティアは安心して活動に参加できる。運営にあたっては、OJTやファシリテーションの専門家の協力を得る。 ③ 修了後は、掘り起こした受講者と育成したボランティアを、既存の日本語教室につなぐ。→人をつなぐことで、団体間をつなぐ。 ④ 地域の日本語教室で共通して使える副教材を、既存の各教室と連携して作成する。作成した副教材は、地域の各教室で「試験的に使用⇄フィードバック」を繰り返しながら改善し、年度末には印刷・無料配布する。→日本語支援に必要なツールをもとに作成することで、団体間をつなぐ。
事業の実施期間	平成28年5月～平成29年2月 (10か月間)

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	佐藤 友則	信州大学グローバル教育推進センター
2	春原 直美	佐久市市民活動サポートセンター
3	平林 啓太郎	松本市木曜午前ボランティア日本語教室
4	寺島順子	松本市なんなん日本語講座
5	高橋 伸光	松本市中央公民館
6	青木 一晟	松本市人権・男女共生課
7	佐藤 佳子	NPO法人中信多文化共生ネットワーク



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成28年5月30日 (月) 13:30～15:30	2時間	Mウイング	佐藤友則、春原直美、平林啓太郎、寺島順子、高橋伸光、青木一晟、佐藤佳子	1. 平成27年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業実績報告について 2. 平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業計画について
2	平成29年2月27日 (月) 13:30～15:30	2時間	Mウイング	佐藤友則、春原直美、平林啓太郎、寺島順子、高橋伸光、青木一晟、佐藤佳子	1. 平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業の取組みの報告について 2. 今後の日本語教育事業の仕組みの構築について

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	① 地域の日本語教室との連携については、教室を相互に見学するほか、情報共有のための勉強会や代表者連絡会議を開催し、情報交換を行った。また、意見交換をしながら、地域で利用できる副教材を協働して作成した。 ② 関係する分野の出前講座については、庁内担当課と調整を行い、地区行事への参加には第一地区福祉ひろばと連携した。 ③ 保育については、NPO法人ワーカーズコープと連携して行った。 ④ 受講者募集については、松本市多文化共生プラザ(NPO法人中信多文化共生ネットワークが市より受託運営)と連携して行った。 ⑤ (有)スマイル・ラボと連携し、教室運営にOJTの手法を取り入れた。 ⑥ (株)コプロジェクト・エムと連携し、教室運営にファシリテーションの手法を取り入れた。
------	---

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	システム・コーディネーターの佐藤佳子は、事業全体をコーディネートした。 プログラム・コーディネーターの鶴賀幸・杉田千織は、運営する教室(コース)をそれぞれコーディネートした。 コーディネーターの3名については、地域の既存の日本語教室と日頃から情報共有し、修了した受講者・ボランティアを教室につないだ。また、地域の日本語教室で利用できる「松本市版・日本語副教材」を、地域の日本語教室からも意見を聞き取りながら作成した。 また、取組3における市職員による出前講座や、地域行事への参加にあたっては、事前にコーディネーターが市の担当課や地区の役員と話し合いを重ね、企画・調整を行った。 赤沼留美子は、人材育成にOJTの手法を取り入れるための講義・助言を行った。 末次克洋は、教室運営や事業運営に有効なファシリテーションの手法を提示・助言した。 託児については、市内の児童館運営に携わるNPO法人ワーカーズ・コープと連携して行った。 生活相談などの必要が生じた場合は、松本市多文化共生プラザ(NPO法人中信多文化共生ネットワークが受託運営)と連携して対応を行った。
----------	---

3. 各取組の報告

＜取組1＞											
取組1	取組の名称		「生活のための日本語教室」実施								
	取組の目標		① 既存の地域の日本語教室につながっていない学習者の掘り起し ② 生活のための初級日本語の習得 ③ 地域に住む外国人と日本人の交流、外国人住民同士の交流 ④ 地域の日本語教室で活用可能な「松本版・副教材」の作成								
	取組の内容		外国人住民向けに、生活に必要な日本語を習得するための日本語教室を実施。 ① 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案を参考に授業を行った。 ② 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案・教材例集を参考にして「松本版・副教材」を、地域の日本語教室と連携して作成し、教室で使用する教材として地域の日本語教室に配布した。今後は各教室での活用後、意見を聞き取り、それを元に各教室からの有志で改良を行っていきたい。 ③ 「生活者としての外国人」に対する日本語教育における日本語能力評価のポートフォリオにもとづいた学習記録を個別に作成した。 ④ 指導者・ボランティアとともにファシリテーションを専門家から学び、教室運営の参考とした。 ⑤ これまで日本語学習の機会や情報を得られなかった外国人住民に対して学習機会を提供し、修了後は地域の日本語教室に可能な限り繋いだ。 ⑥ 本事業で掘り起こしたボランティアに対して、コーディネーターのサポートの下、日本語ボランティアのやりがいを実体験してもらい、修了後、可能な限り地域の日本語教室につないだ。今後も引き続き市内の地域日本語教室における活動や多文化共生に関わる活動に参加するよう、修了者に情報提供を行い、促していく。 ⑦ 外国人相談窓口である多文化共生プラザを、ボランティア・受講者双方に対して紹介・周知した。								
	☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動	なし								
	取組による体制整備		この取組で掘り起こした受講者・ボランティアを地域の日本語教室に紹介し(人でつながる)、複数の日本語教室が協働して「松本版・副教材」を作成する(活動でつながる)ことで、日本語教室間の連携を生み出すことを目的とした。ただし、平日昼間に教室を開催したため、時間的な都合から同じ平日昼間の教室への参加を希望する者が、ボランティア・受講者ともに多く、すべての教室に対して掘り起こしが行えたとは言えない。 一方で、受講者掘り起こしを積極的に行うことで、言語や生活に困難を抱える外国人を看過しない意識を教室関係者に生み出し、また地域の既存の日本語教室との情報交換の機会も生み出した。								
	取組による日本語能力の向上		この取組で最低限の生活に必要な日本語を習得すると同時に、教室に通うことの意義や日本人とコミュニケーションをとることの楽しさを感じ取ってもらい、地域の日本語教室での継続学習へとつなげる。								
	参加対象者		日本語を母語としない者で、日本語学習の経験があまりない者及び日本人ボランティアとして活動経験があまりない者				参加者数 (内 外国人数)		70人 (44人)		
	広報及び募集方法		地域コミュニティにおける外国人キーパーソンや、庁内の関係課、既存の日本語教室等と連携しながら、広報・募集を行う。本市市民課における転入手続きの際の告知、「広報まつもと」や市ホームページへの掲載、新聞等の地域メディアでの広報、Facebookの活用等。								
	開催時間数		総時間 123時間(空白地域 時間)				1回 3時間 × 12回 × 3クール (上記の他にボランティアスタッフ向け研修 1回 3時間 × 5回)				
	主な連携・協働先		市内の各日本語教室、松本日本語カフェ(Mカフェ)、市民課、広報広聴課、松本市中央公民館、多文化共生プラザ、NPO法人中信多文化共生ネットワーク、NPO法人ワーカーズコープ、(株)コプロジェクト・エム								
開催場所		松本市中央公民館(Mウイング)									
参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル		
		17	0	6	2	6	0	2		2	
		台湾(3人)、エジプト(1人)、イギリス(1人)、フランス(1人)、アメリカ(3人)、日本【ボランティアとして】(26人)									
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容		指導者名	補助者名		
1	平成28年5月24日 (火) 9:30～12:30	3	中央公民館	10	自己紹介	【基礎クラス】教室のことば、あいさつ 【発展クラス】場面別(PTAや職場)自己紹介		鶴賀 幸 杉田 千織			
2	平成28年5月31日 (火) 9:30～12:30	3	中央公民館	10	家族について話す	【基礎クラス】家族について話す 【発展クラス】家族を紹介する		鶴賀 幸 杉田 千織			
3	平成28年6月3日 (金) 9:30～12:30	3	中央公民館	8	買い物・食事をする	【基礎クラス】商品の名前と値段を知る 【発展クラス】おすすめのお店の情報交換をする、クーポンを使う		鶴賀 幸 杉田 千織			

4	平成28年6月7日 (火) 9:30～12:30	3	中央公民館	12	時間を聞く・約束をする	【基礎クラス】営業時間やバスの時間を調べる 【発展クラス】予約や予定の変更をする	鶴賀 幸 杉田 千織	
5	平成28年6月10日 (金) 9:30～12:30	3	中央公民館	15	場所をたずねる・道案内をする	【基礎クラス】松本市内の観光名所・施設の場所を知る 【発展クラス】道順を説明する	鶴賀 幸 杉田 千織	
6	平成28年6月14日 (火) 9:30～12:30	3	中央公民館	13	曜日を聞く	【基礎クラス】ゴミ出しの曜日を知る 【発展クラス】天気予報を聞く	鶴賀 幸 杉田 千織	
7	平成28年6月17日 (金) 9:30～12:30	3	中央公民館	13	今日することについて話す	【基礎クラス】日常生活について話す 【発展クラス】自分から積極的に提案する、申し出る	鶴賀 幸 杉田 千織	
8	平成28年6月21日 (火) 9:30～12:30	3	中央公民館	10	移動する	【基礎クラス】交通手段について話す 【発展クラス】行先や交通手段について、アドバイスを求める・アドバイスする	鶴賀 幸 杉田 千織	
9	平成28年6月28日 (火) 9:30～12:30	3	中央公民館	8	カレンダー	【基礎クラス】生年月日や予定の日を伝える 【発展クラス】スケジュール調整をする	鶴賀 幸 杉田 千織	
10	平成28年7月1日 (金) 9:30～12:30	3	中央公民館	11	好きなことについて話す	【基礎クラス】自分の好みを伝える 【発展クラス】相手のいいところをほめる、ほめにこたえる	鶴賀 幸 杉田 千織	
11	平成28年7月5日 (火) 9:30～12:30	3	中央公民館	12	感想を話す	【基礎クラス】松本の印象を話す 【発展クラス】相手に応じた感情表現(友人・ご近所・同僚など)	鶴賀 幸 杉田 千織	
12	平成28年7月12日 (金) 9:30～12:30	3	中央公民館	8	日本語で発表	【基礎クラス】「私」についてみんなに知ってもらう 【発展クラス】「頑張りたいこと」を話す	鶴賀 幸 杉田 千織	
13	平成28年8月26日 (金) 9:30～12:30	3	中央公民館	9	自己紹介	【基礎クラス】教室のことは、あいさつ 【発展クラス】場面別(PTAや職場)自己紹介	鶴賀 幸 杉田 千織	
14	平成28年9月2日 (金) 9:30～12:30	3	中央公民館	13	家族について話す	【基礎クラス】家族について話す 【発展クラス】家族を紹介する	鶴賀 幸 杉田 千織	
15	平成28年9月6日 (火) 9:30～12:30	3	中央公民館	10	買い物・食事をする	【基礎クラス】商品の名前と値段を知る 【発展クラス】おすすめのお店の情報交換をする、クーポンを使う	鶴賀 幸 杉田 千織	
16	平成28年9月9日 (金) 9:30～12:30	3	中央公民館	18	時間を聞く・約束をする	【基礎クラス】営業時間やバスの時間を調べる 【発展クラス】予約や予定の変更をする	鶴賀 幸 杉田 千織	
17	平成28年9月13日 (火) 9:30～12:30	3	中央公民館	9	場所をたずねる・道案内をする	【基礎クラス】松本市内の観光名所・施設の場所を知る 【発展クラス】道順を説明する	鶴賀 幸 杉田 千織	
18	平成28年9月16日 (金) 9:30～12:30	3	中央公民館	15	曜日を聞く	【基礎クラス】ゴミ出しの曜日を知る 【発展クラス】天気予報を聞く	鶴賀 幸 杉田 千織	
19	平成28年9月20日 (火) 9:30～12:30	3	中央公民館	12	今日することについて話す	【基礎クラス】日常生活について話す 【発展クラス】自分から積極的に提案する、申し出る	鶴賀 幸 杉田 千織	
20	平成28年9月23日 (金) 9:30～12:30	3	中央公民館	11	移動する	【基礎クラス】交通手段について話す 【発展クラス】行先や交通手段について、アドバイスを求める・アドバイスする	鶴賀 幸 杉田 千織	
21	平成28年9月27日 (火) 9:30～12:30	3	中央公民館	8	カレンダー	【基礎クラス】生年月日や予定の日を伝える 【発展クラス】スケジュール調整をする	鶴賀 幸 杉田 千織	
22	平成28年9月30日 (金) 9:30～12:30	3	中央公民館	13	好きなことについて話す	【基礎クラス】自分の好みを伝える 【発展クラス】相手のいいところをほめる、ほめにこたえる	鶴賀 幸 杉田 千織	
23	平成28年10月4日 (火) 9:30～12:30	3	中央公民館	10	感想を話す	【基礎クラス】松本の印象を話す 【発展クラス】相手に応じた感情表現(友人・ご近所・同僚など)	鶴賀 幸 杉田 千織	
24	平成28年10月14日 (金) 9:30～12:30	3	中央公民館	13	日本語で発表	【基礎クラス】「私」についてみんなに知ってもらう 【発展クラス】「頑張りたいこと」を話す	鶴賀 幸 杉田 千織	
25	平成28年11月1日 (火) 9:30～12:30	3	中央公民館	8	自己紹介	【基礎クラス】教室のことは、あいさつ 【発展クラス】場面別(PTAや職場)自己紹介	鶴賀 幸 杉田 千織	
26	平成28年11月4日 (金) 9:30～12:30	3	中央公民館	8	家族について話す	【基礎クラス】家族について話す 【発展クラス】家族を紹介する	鶴賀 幸 杉田 千織	
27	平成28年11月8日 (火) 9:30～12:30	3	中央公民館	6	買い物・食事をする	【基礎クラス】商品の名前と値段を知る 【発展クラス】おすすめのお店の情報交換をする、クーポンを使う	鶴賀 幸 杉田 千織	
28	平成28年11月11日 (金) 9:30～12:30	3	中央公民館	7	時間を聞く・約束をする	【基礎クラス】営業時間やバスの時間を調べる 【発展クラス】予約や予定の変更をする	鶴賀 幸 杉田 千織	

29	平成28年11月15日 (火) 9:30～12:30	3	中央公民館	5	場所をたずねる・道 案内をする	【基礎クラス】松本市内の観光名所・ 施設の場所を知る 【発展クラス】道順を説明する	鶴賀 幸 杉田 千織	
30	平成28年11月18日 (金) 9:30～12:30	3	中央公民館	10	曜日を聞く	【基礎クラス】ゴミ出しの曜日を知る 【発展クラス】天気予報を聞く	鶴賀 幸 杉田 千織	
31	平成28年11月22日 (火) 9:30～12:30	3	中央公民館	5	今日することについ て話す	【基礎クラス】日常生活について話す 【発展クラス】自分から積極的に提案 する、申し出る	鶴賀 幸 杉田 千織	
32	平成28年11月25日 (金) 9:30～12:30	3	中央公民館	6	移動する	【基礎クラス】交通手段について話す 【発展クラス】行先や交通手段について、 アドバイスを求める・アドバイスする	鶴賀 幸 杉田 千織	
33	平成28年11月29日 (火) 9:30～12:30	3	中央公民館	6	カレンダー	【基礎クラス】生年月日や予定の日を 伝える 【発展クラス】スケジュール調整をする	鶴賀 幸 杉田 千織	
34	平成28年12月9日 (金) 9:30～12:30	3	中央公民館	8	好きなことについて 話す	【基礎クラス】自分の好みを伝える 【発展クラス】相手のいいところをほめ る、ほめにこたえる	鶴賀 幸 杉田 千織	
35	平成28年12月13日 (火) 9:30～12:30	3	中央公民館	6	印象・感想を話す	【基礎クラス】松本の印象を話す 【発展クラス】相手に応じた感情表現 (友人・ご近所・同僚など)	鶴賀 幸 杉田 千織	
36	平成28年12月16日 (金) 9:30～12:30	3	中央公民館	6	日本語で発表	【基礎クラス】「私」についてみんなに 知ってもらう 【発展クラス】「頑張りたいこと」を話す	鶴賀 幸 杉田 千織	

(1) 特徴的な活動風景(2回分)

○取組事例①

【第11回 28年7月5日】

この日の基礎クラスの学習テーマは「印象・感想を話す」。まだ日本語を学び始めて1か月あまりで語彙は少ないものの、それまでに授業で習った形容詞を使ったり、スマホを使ったりしながら自分の伝えたい言葉を選んで、松本の印象について日本語で話した。毎回、まず全体での説明をプログラムコーディネーターが行い、その後の会話練習や文の作成は受講者1名にボランティアスタッフが1名付き、個別の練習を進めていく形式。まだ慣れないボランティアスタッフに対しては、コーディネーターがアドバイスをしながらサポート。この日発表した、受講者の松本の印象はそれぞれ異なっていて、それを聞く日本人のボランティアスタッフにとっても様々な気づきがあった。

また、毎回「リフレッシュタイム」を設けて、日本語を使ったゲームやアクティビティーを行った。松本市の実施した多文化共生に関する意識調査の中でも「地域の日本語教室は楽しくない・つまらない」という回答が見受けられたが、こういった受講者がリラックスして日本語を楽しめる時間を設けることで、より打ち解けやすい雰囲気を作り、レベルの違う受講者同士の交流も図ることができた。



○取組事例②

【第24回 28年10月4日】

24回目に当たるこの日は第2期の修了式。修了式での発展クラスの発表は日本語劇の形をとり、受講者が台本から作成した。修了式以外でも、発展クラスでは毎回多くのロールプレイを取り入れた。プログラムコーディネーターによる導入の後には、ボランティアスタッフがまず前に出て見本のロールプレイを見せ、その後個別にロールプレイの練習を行い、発表した。発展クラスは、基礎クラスと違い、日本語を学ぶのは初めてであるものの滞日年数が高い受講者が中心。日常生活では何とか日本語でコミュニケーションを取ってはいるものの、もっと会話ができるようにになりたいという受講者の要望から、なるべく実践的な講座になるよう工夫した。

また、修了式では女性・男性は袴を着用。これは参加しているボランティアスタッフからの提案で、ボランティアが自宅にあるものを持ち寄って協力し合いながら短時間で着付けを行った。日本文化体験はどの教室でも行われていることだが、受講者がその様子をSNSを使って友人に送ることも多く、教室の広報にも繋がった。



(2) 目標の達成状況・成果

アンケート結果について、「日本語が上手になったか」の問いに対して、上手になった(64%)、まあまあ上手になった(27%)とあわせて91%の受講者が、プログラム参加前に比べて日本語が上手になったと回答した。また、「日本での生活ができるようになったか」の問いに対しては、できるようになった(58%)、少しできるようになった(33%)とあわせて91%の受講者が、プログラム参加前に比べて生活ができるようになったと回答した。また、回答した全員が「もっと日本語を勉強したい」と答えていることから、今後の日本語学習への意欲を持つことができたと言える。

外国人受講者46名のうち15名、ボランティアスタッフ26名のうち10名が既存の日本語教室に繋がった。

また、今年度、松本版副教材を作成するにあたっては、各日本語教室の代表者と、どのような内容が必要かについて協議しながら進め、顔の見える関係を築くことができた。H29年3月15日に開催された松本市内日本語教室代表者会議では、今後市内の教室のボランティアでこの教材を活用していくことと、引き続き市内の日本語教室が協力しながら必要に応じて新たな教材を作成していくことを確認した。

(3) 今後の改善点について

本プログラム修了後、既存の各日本語教室に繋がった外国人受講者について、フォローアップが十分にできていなかった。日本語教室に繋いだだけで終わるのではなく、その後の様子を本人から聞き取ったり、このプログラムを修了した受講者がスムーズにクラスに入れたかどうかを教室の代表者から聞き取ったりすることが、一部の受講者に対しては行えたものの、教室間の連携を深めるためには全員に対してよりきめ細やかなフォローアップが必要であった。

受講者の募集、託児の活用にも波があり、通年で一定数を確保することが難しかった。この3年間の実施を通じて、この地域における外国人受講者の募集にもっとも有効な広報手段は「コミュニティの中での口コミ」「関係機関・窓口からの紹介」という、人を介した方法であり、いっぽう日本人ボランティア募集に最も有効な手段は「広報やチラシ・HP」といった媒体であることが明確になった。今後も受講者やボランティアの減少に悩む各日本語教室と多文化共生プラザなどが連携して、募集にあたっていきたい。

＜取組2＞

取組2

取組の名称		OJT(On the Job Training)等による日本語ボランティアの養成							
取組の目標		① 日本語ボランティア希望者の掘り起し ② OJTの手法を活用した、実地訓練による日本語ボランティアの養成 ③ 養成したボランティアを地域の日本語教室につなぐ ④ 外国人住民を理解する日本人を地域に増やす							
取組の内容		平成22・23年に本市で開催した文化庁事業「日本語ボランティア養成講座」は、ボランティアの裾野を広げることが目的であったが、講座修了者が実際の日本語支援の活動につながらない、ということが課題であった。 取組1の「生活のための初級日本語教室」においてOJT(On the Job Training)による研修を行い、知識習得だけでなく、日本語ボランティアのやりがいと活動の楽しさを体感し、実践で活躍できる人材を育てることを目的とした。 ① 外国人住民の背景を知るための研修 ② 日本語教育の基礎知識を得るための研修 ③ 「生活のための初級日本語教室」を実施するなかでのOJT ④ 講座終了後のふりかえり研修							
	空白地域を含む場合、空白地域での活動	なし							
☐ 取組による体制整備		① 将来、地域の日本語教室で日本語ボランティアスタッフとして活躍できる人材を養成。 ② 地域の日本語教室で既に活動しているスタッフにも研修への参加を促し、教室間の交流・連携を進めた。 ③ 外国人住民を理解する日本人を地域に増やすことで、双方が暮らしやすいまちづくりを目指した。							
取組による日本語能力の向上		本取組の対象者は日本人であるが、日本人が知識やスキルを得ることで、日本語教室における外国人の日本語習得が進んだり、地域で暮らしやすくなったりする効果が考えられる。							
参加対象者		「生活のための日本語教室」参加者や市内の日本語教室参加者をはじめ、参加希望の者は誰でも。外国人の参加も受け入れる。				参加者数 (内 外国人数)		32人 (2人)	
広報及び募集方法		「広報まつもと」や市ホームページへの掲載、新聞等の地域メディアでの広報、Facebookの活用、市内の日本語教室への訪問による広報							
開催時間数		総時間 31時間(空白地域 時間)				日本語教育:1回 2時間 × 9回 OJT:1回 2時間 × 2回、3時間 × 3回			
主な連携・協働先		市内の日本語教室、(有)スマイル・ラボ、多文化共生プラザ							
開催場所		松本市中央公民館(Mウイング)							
参加者の出身・国別内訳 (人数)	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル	
	1								
	日本(30人)、台湾(1人)								

実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成28年5月13日 (金) 10:00～12:00	2	中央公民館	15	外国人住民の背景を知ろう①	松本市に住んでいる「外国人」とはどんな人たちなのか(国籍・在留資格・近年の傾向など)	佐藤 佳子	
2	平成28年5月17日 (火) 10:00～12:00	2	中央公民館	22	外国人住民の背景を知ろう②	日本語教室に来るのはどんな学習者なのか。日本語教室の課題は何か	佐藤 佳子	
3	平成28年5月20日 (金) 10:00～12:00	2	中央公民館	18	日本語を外国人から見る①	外国語としての日本語。日本語を客観的に見てみよう	佐藤 佳子	
4	平成28年7月15日 (金) 10:00～12:00	2	中央公民館	20	日本語を外国人から見る②	いま市内の日本語教室で使っている教材を見てみよう	佐藤 佳子	
5	平成28年7月19日 (火) 10:00～12:00	2	中央公民館	19	日本語を外国人から見る③	「生活者」としてどんな日本語が必要か	佐藤 佳子	
6	平成28年7月22日 (金) 10:00～12:00	2	中央公民館	16	日本語教室でどんなテーマを扱うか①	ガイドブックと教材例集をもとに松本で必要な内容を考える①	佐藤 佳子	
7	平成28年7月26日 (金) 10:00～12:00	2	中央公民館	21	日本語教室でどんなテーマを扱うか②	ガイドブックと教材例集をもとに松本で必要な内容を考える②	赤沼 留美子	
8	平成28年7月28日 (木) 10:00～12:00	2	中央公民館	23	OJTの基本	(講師作成の著作物を使って)OJTの基本的な考え方と実践例を知る	赤沼 留美子	

9	平成28年10月18日 (火) 10:00～12:00	2	中央公民館	20	みんなで松本地域の教材を作ろう①	(取組1の教室活動を振り返りながら)教室で使いたい松本の地図と情報・その会話場面を考える	佐藤 佳子	
10	平成28年10月21日 (金) 10:00～12:00	2	中央公民館	25	みんなで松本地域の教材を作ろう②	(取組1の教室活動を振り返りながら)教室で話題にしたい松本の季節行事・名産品・その会話場面を考える	佐藤 佳子	
11	平成28年10月25日 (火) 10:00～12:00	2	中央公民館	21	みんなで松本地域の教材を作ろう③	(取組1の教室活動を振り返りながら)外国人にとって必要な生活情報とその会話場面を考える	佐藤 佳子	
12	平成29年1月24日 (火) 9:00～12:00	3	中央公民館	19	OJTを日本語教室に応用してみよう①	我々の使命は何か。顧客は誰か。顧客の価値は何か	赤沼 留美子	
13	平成29年1月27日 (金) 9:00～12:00	3	中央公民館	22	OJTを日本語教室に応用してみよう②	我々の成果は何か。我々の計画は何か	赤沼 留美子	
14	平成29年1月31日 (火) 9:00～12:00	3	中央公民館	23	今後の活動を考える	今の課題とこれからやりたいこと・できることを個人で挙げて、全体で共有。次の一歩を見つける	赤沼 留美子	

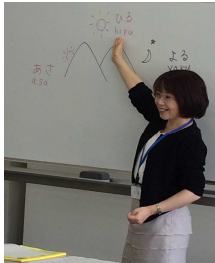
(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第3回 28年5月20日】

第1回・第2回の講座では、市内に住む外国人の背景を知り、日本語教室に通う「外国人」とはどんな人たちなのかを知るための研修を行った。そういった知識を踏まえたうえで、第3回のこの日は「外国語としての日本語」というテーマで、日本語を第二言語として教えるための基礎知識を学んだ。

ボランティア希望者からの要望で最も多いのは「日本語の教え方を教えてほしい」というものだが、日本語教師養成講座のように文法や教授法をボランティア養成講座の限られた時間数で行うことは難しく、また地域の日本語教室とのずれも生じやすい。本プログラムでは日本語指導に関してはコーディネーターが責任を持ってあたため、それをサポートするボランティアスタッフに求められるものは、外国人にとっての「地域社会の入り口」としての役割であり、そのためにはコミュニケーションをしっかりと取ってもらうことが重要となる。とはいえ、日本語を十分に話せない受講者とのコミュニケーションには様々な工夫が必要であるため、この講座ではそういったポイントを説明し、その後の取組1の授業で実践してもらった。



○取組事例②

【第14回 29年1月31日】

今年度の事業を終えた後にどのような活動を展開していけるかについて、OJTトレーナーの赤沼氏を講師に迎え、コーディネーターとボランティアスタッフで検討した。既存の地域日本語教室でボランティアを続けたいという意見が最も多かったが、一方で「読み書きを中心にした教室」を新たに開催したいという意見や、外国人のお母さんと子どもをサポートする活動を今後も継続・発展させていきたいという声も上がった。また、日本語教育に限らず、多文化共生に関する活動に関わりたいという意見も多く、市が実施する事業やNPO法人が開催するイベントなどを紹介した。赤沼氏が主宰する団体と連携して、外国人と日本人がともに市民農園を利用して外国の野菜を栽培しようという案も出た。

既に29年2月より「多文化のWA」という会が、本事業に携わったメンバーによって立ち上げられ、日本語を教えるための勉強会を開いており、今後は日本語による多読の会の開催なども模索している。

いっぽうで、無償のボランティア活動が続けるにあたって、家族の理解が得られないという声も複数上がった。毎回の参加を課すのではなく、日本人にとっても外国人にとっても都合のよいときに気軽に立ち寄れる「居場所」のような活動をめざそうという結論に至った。



(2) 目標の達成状況・成果

取組2では、コーディネーターやボランティアからの要望を聞き取りながら、研修内容を組み立てていった。

修了後の個別の聞き取りからは、OJTの基本を学んだことで、日本語クラス時の受講者への対応が変わっただけでなく、活動の意味やあり方を考えることができるようになったといった意見が多かった。特に「5つの問い」(使命は何か・顧客は誰か・顧客の価値は何か・成果は何か・計画は何か)を学べたことで、活動に積極的に関わることができるようになったというボランティアが多かった。

また、標準的なカリキュラム案を通じて、外国人の生活場面やそこで必要となる日本語を考えることで、最終的には『みんなでひろげてたくさんはなそう』松本版副教材を成果物として作成することができた。

(3) 今後の改善点について

本プログラムは平日昼間に実施したことから、外国人受講者、日本人ボランティアともに、修了後繋がったのは同じ昼間に開催されている日本語教室が中心であり、松本市内にある12教室すべてに対して紹介できたわけではなかった。

その反省もふまえて、今年度は中央公民館が10月から11月にかけて5回にわたり「日本語ボランティアきっかけ講座」を平日夜間に開催し、30名を超す市民が参加した。本事業のシステムコーディネーターである佐藤佳子も講師を務め、夜間や土日に開催されている日本語教室のボランティア不足解消につとめた。この講座は来年度も継続開催の予定である。

各教室の代表者からは「新規ボランティアのためだけでなく、すでに活動をしているボランティアへの研修も実施してほしい」という声が上がっているため、今後も中央公民館を中心に講座の開催を検討していく。

<取組3>

取組3

取組の名称		日本語支援における松本市出前講座の活用							
取組の目標		① 外国人受講者には、生活に必要な日本語や知識を身につけてもらう。 ② 市職員には外国人住民の現状や課題、「やさしい日本語」による対応などへの理解を進める。 ③ 出前講座について他の日本語教室にも知ってもらい、各教室でも活用を促す。 ④ 地域づくりセンターや地区公民館と連携し、地域行事に外国人が参加することで、相互理解へのきっかけとする。							
取組の内容		日本語支援に係る関係機関との連携体制を構築する一環として、生活と密着した分野の市出前講座を活用。 市職員と事前に打ち合わせを行うことで、外国人住民の現状や、やさしい日本語使用への理解を進めるよう努めた。 また、地区の福祉ひろばと連携し、地域行事に外国人と日本語教室が参加することで、相互理解へのきっかけとした。							
	空白地域を含む場合、空白地域での活動	なし							
取組による体制整備		① 市職員への外国人住民の現状理解や「やさしい日本語」への理解の推進 ② 地域の日本語教室への市出前講座活用の普及 ③ 市関係課との連携体制の構築 ④ 地域における日本人住民と外国人住民の相互理解の推進							
取組による日本語能力の向上		日常生活レベルの日本語や知識を獲得することにより、生活の利便性が向上する。							
参加対象者		「生活のための日本語教室」参加者や市内の日本語教室参加者をはじめ、参加希望の者は誰でも。				参加者数 (内 外国人数)		55人 (31人)	
広報及び募集方法		「生活のための日本語教室」内での周知、市内の日本語教室での周知、FaceBookの活用等							
開催時間数		総時間 18時間(空白地域 時間)				1回 3時間 × 6回			
主な連携・協働先		市出前講座の各担当課、市内の日本語教室、松本市中央公民館、第一地区福祉ひろば							
開催場所		松本市中央公民館(Mウイング)、中央体育館、第一地区福祉ひろば							
参加者の出身・国別内訳 (人数)	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル	
	13	0	3	1	3	0	1	0	
	台湾(3人)、ネパール(3人)、アメリカ(3人)、イギリス(1人)、日本(24人)								

実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成28年6月24日 (金) 9:00～12:00	3	第一地区福祉ひろば	25	ボイストレーニング	「生きがい講座」のボイストレーニングに参加し、普段接することがない地域住民と交流	鶴賀 幸 杉田 千織	
2	平成28年7月8日 (金) 9:00～12:00	3	中央公民館	28	ウォーキング・ストレッチの基本	スポーツ推進課職員を講師に、日ごろからできるストレッチなどを学んだ	鶴賀 幸 杉田 千織	
3	平成28年10月7日 (金) 9:00～12:00	3	中央公民館	20	応急手当講習会 (入門救急講習)	松本広域消防局職員を講師に、蘇生法とAEDの使い方を学んだ	鶴賀 幸 杉田 千織	
4	平成28年10月11日 (火) 9:00～12:00	3	中央公民館	25	親子でできる料理教室①	健康づくり課職員を講師に、日本の文化である「お弁当作り」を学んだ	鶴賀 幸 杉田 千織	
5	平成28年12月2日 (金) 9:00～12:00	3	中央公民館	22	親子でできる料理教室②	健康づくり課職員を講師に、お弁当や季節行事にも使える巻きずしと、みそ汁の作り方を学んだ	鶴賀 幸 杉田 千織	
6	平成28年12月6日 (火) 9:00～12:00	3	中央公民館	27	交通安全について	交通安全・都市交通課職員を講師に、酩酊状態の疑似体験や交通標識クイズなどを行った	鶴賀 幸 杉田 千織	

(1) 特徴的な活動風景(2回分)

○取組事例①

【第3回 28年10月7日】

この日は松本市の出前講座を活用し、松本広域消防局の職員による応急手当講習会(入門救急講習)を実施した。事前にコーディネーターが消防局に出向き、本事業についての説明や外国人の日本語のレベルを説明し、可能な限りやさしい日本語で視覚に訴える内容にしてほしい旨を伝えた。蘇生法教育人体モデルを使った蘇生法の練習と、AEDの使い方の実践と三角巾を使った応急包帯法を学んだ。講師の方の説明ははっきりとわかりやすく可能な限りやさしい日本語で伝えてくれたため、大変好評だった。子どもがいる外国人受講者も多く、応急処置についてわかってよかったという感想が多かった。



○取組事例②

【第1回 28年6月24日】

第一地区福祉ひろばで毎月1回開催されている、生きがい講座B「ボイストレーニング」に参加した。福祉ひろばのコーディネーターと事前に打ち合わせを行い、講師のボイストレーナーにも事業の趣旨や受講者の日本語レベルを説明し、快諾いただいたうえで当日を迎えた。講師は、FMまつもとで毎朝の番組を担当している方でもあり、非常に軽快な進行のもと、緊張していた外国人受講者もうち解けやすい雰囲気に参加することができた。

福祉ひろばは、通常高齢者の利用が多く、この講座もふだんは参加者が少ないとのことで、地域の方にも歓迎していただいた。地域のみなさんからは「外国の人と地元で接したことはこれまでなかった」「こんなにたくさんいるとは驚いた」といった感想をいただき、外国人受講者もふだんは交流することのない世代の方と日本語で話すよい機会となった。



(2) 目標の達成状況・成果

毎回の終了後の聞き取りからは、「非常に楽しかった」(共通)、「知らなかった知識を学ぶことができてよかった」(応急手当・交通安全)、「子どものお弁当作りをふだんからして、これでいいの不安だったが、詰め方や色のバランスなどを教えてもらえてよかった」(料理教室)など、参加してよかったという意見が多く聞かれた。

また、各課の担当者や講師からは、「外国の人がいっしょけんめい取り組んでくれてよかった」「外国人は反応がとてもよく、質問もたくさんしてくれたので、ふだんの日本人相手の講座よりもやりやすかった」といった感想が寄せられた。そのほかに「やさしい日本語で話すことが予想以上に難しく、コーディネーターがやさしい日本語に直して話すのを聞いて、なるほどと思った」など、通常の日本人対象の講座とは配慮すべきポイントが異なることに戸惑いながらも「(外国人を対象とした講座の開催は)いい経験となった」という感想を全員の講師からいただいた。

(3) 今後の改善点について

3年間にわたり市の出前講座を中心に活用してきたが、日本語が十分ではない外国人も参加できる講座は、どうしても「料理」「スポーツ」「応急処置」など活動中心のものに偏ってしまう。かつては「防災」「ごみの分別」などの講座も何度か開催したが、外国人の参加希望者が極端に少なく、こちらが伝えたいことと外国人が知りたい・参加したいと思うことに差があった。

いっぽうで、各地域の福祉ひろばでは、今年度の「ボイストレーニング」のほか、昨年度参加した「しめ縄リースづくり」など、参加者が楽しみながら地域の日本人と交流することができる催しが多くあった。出前講座では参加者が外国人とボランティアスタッフに限られてしまうが、地域のイベントに参加することで、ふだん接することのできない多世代の日本人と、日本語で交流することができた。ただ、参加にあたっては、通常参加している日本人のみなさんにも本事業の主旨を説明して事前に理解を得ておくなど、より調整への配慮が必要であると感じた。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

- ① 日本語学習の必要を感じていながら、既存の日本語教室につながれていない外国人の掘り起し。
- ② 地域の日本語教室でボランティアとして活動することを希望する日本人の掘り起し。
- ③ 平成26・27年度で当市が実施した文化庁生活者事業により始まりつつある、既存の日本語教室間との情報共有や連携、庁内の関係課や地域住民とのつながりをさらに深める。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

目的・目標①について、地域の日本語教室に繋がった外国人は今年度15名、3年間の事業を通じては42名、また目的・目標②について、地域の日本語教室に繋がった日本人ボランティアは今年度10名、3年間の事業を通じては35名であった。

目的・目標③について、今年度の運営委員会でも、他教室の代表者である委員から「文化庁事業が実施されたことで、市内の教室間で連携の意識が生まれ、風通しもよくなったと思う」という意見があった。また、昨年度からは、中央公民館により年に1度、日本語教室代表者会議が開催されるようになった。数値で測ることは難しいが、体制整備に向けて連携が生まれてきていると言える。

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

各地域で開催されている日本語教室に、本プログラムを修了した外国人受講者・日本人ボランティアを紹介するほか、地域の日本語教室からも受講者を紹介されたり、相談が寄せられたりした。

また取組3で地域の福祉ひろばや地域づくりセンターと連携を取ったり、地域で開催されているサークル活動に参加したりすることによって、日本語教室以外の地域住民と交流を図ることができた。

(4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

周知・広報については、市の広報誌や転入時のガイドブックへのチラシの折り込みといった紙媒体のほか、FacebookなどのSNSの活用も行ったが、もっとも効果があったのは地域コミュニティにおける外国人キーパーソンからの紹介や、他の日本語教室の講師からの紹介など、人を介するものだった。また、受講中の外国人が友人を連れてくることも多かった。

事業成果の地域への発信については、各日本語教室への報告を3月に実施した日本語教室代表者会議で行ったほか、今後は作成した報告書を関係各所に配布したり多文化共生プラザ等の市の施設に設置したりすることで広く継続的に成果の発信を行っていきたい。

(6) 改善点、今後の課題について

本事業は今年度で終了となるが、それぞれの取組を通じて掘り起こされた人材や生まれつつある日本語教室の連携体制を今後も活用していきたい。

特に、H28年7月に策定した「第2次松本市多文化共生推進プラン」には日本人・外国人キーパーソンの活用が盛り込まれていることから、日本人ボランティアには「日本人キーパーソン」として、外国人受講者には「外国人キーパーソン」として、外国人住民の相談受付、外国人住民への情報伝達、外国人住民の地域づくりへの参画に関わっていただけるよう今後働きかけていく予定である。

(7) その他参考資料

別添のとおり